

○ 7月8日（金） 晴れ 旭岳から裾合平（82歳の旭岳）

今年（令和4年）7月3日に82歳の誕生日を迎えた。

7月6日から恒例の北海道花旅に出かけた。平成19年の6月から始めた北海道の山旅も途中体調不良や新型コロナなどで3回欠けたので13回目になる。昨年と一昨年の2回は新型コロナのため出かけるのを控えたので3年ぶりの北海道だ。

今回は老体に無理をすることはできないので、今までのような長期間ではなく、10日間の予定で大雪山を中心に回る計画をたてた。大雪山の最高峰旭岳（2291m）は今まで3回登っているが、山頂往復か、間宮岳までしか行ったことがなく、裾合平を歩いたことがなかった。今回は裾合平を歩くことを第一の目的とした。そのほか、赤岳、黒岳、富良野岳を計画した。どれも花の多い私の大好きな山々だ。

昨夜は道の駅・東川道草館で車中泊。今朝は2時45分に起床。早朝3時15分に道の駅東川を出発し旭岳登山口へ向かった。前回来たときは登山口駐車場が満車状態だったので、少々早く出て4時前に着いたが、今回はガラガラで余裕をもって駐車した。気温12℃、あたりはもうすっかり明るくなっている。

朝食を摂り登山の支度を整えたが、ロープウエーの6時半始発までまだかなり時間がある。寒いので暖房をつけた車内で横になって待った。

6時前にロープウエー駅に行ったが、登山者が続々とやってきて数十人の列ができた。始発のロープウエーに乗り10分ほどで姿見駅に着いた。

標高1600mの姿見は快晴、山頂はくっきりと晴れていて、今日は絶好の登山日和になりそうだ。



姿見池までは登山道の両側がお花畑でエゾノツガザクラやチングルマが一面に咲き、所々にピンクの可愛いエゾコザクラが出迎えてくれ、足取りも軽くなる。

前回8月初めに歩いた時は、道の左側にホソバノキソチドリが群生して咲いていたのに今回は全く見かけない。楽しみにして来た花なのに残念だ。



姿見池にはまだ雪が残っているし、花の時期にはちょっと早すぎたのだろう。



姿見池からは火山礫の急登の登山道となり、植物はほとんど姿を消す。
たまに顔を出すイソツツジやメアカンキンバイが疲れた体に元気を与えてくれる。

小さな白い花を沢山つけるヒメイワタデは葉はあるのだが、小さな蕾を付けているだけで花はまだまだのようだ。



空はすっかり晴れあがり真夏の太陽が容赦なく照りつける。マイペースでゆっくり登っている私の横をあとから来る登山者がどんどん追い越して登ってゆく。そんなに急いでもしょうがないだろうに。

8合目から上を眺めると、山頂に向かって登ってゆく登山者の列のシルエットが青空に抜けて見える。振り返って下を眺めると、下の方では雲が湧いてきて、姿見池ははるか下、雲の中だ。



途中何回か腰を下ろして休み、景色を眺め、写真を撮りながらのんびり登って、9時半に山頂に着いた。6年前には2時間余で登ってきた山頂だが、今回は2時間半以上かかった。やはり足腰の衰えはかなり感じる。

山頂は混雑していて、入れ代わり立ち代わり山頂の標識を入れて写真を撮っている。私も82歳の登山記念に1枚撮ってもらった。



大雪山最高峰の山頂からは360度の展望が開けている。間宮岳からお鉢平の左を巻いて北鎮岳の裾を通り黒岳経由層雲峡へ抜けるコース、北海岳を通過して白雲岳、忠別岳、化雲岳からトムラウシへと続く大雪山縦走コースの大パノラマが開けるが、トムラウシ方面は雲がかかっているため遠望することはできなかった。

さてこれから間宮岳に向かって東斜面を下る。この道は黒岳から 層雲峡へ抜ける時も、北海岳からトムラウシ方面へ縦走する時も通るので登山者が多い。

以前にも下ったが、道は急斜面を真っ直ぐ下る涸れ沢状の悪路でかなり歩きづらく、みなさん大きなザックを担いで苦労して下っている。幸い今回は斜面の下の方がまだ雪が積もっていたので、悪路を歩くことなく雪の上を歩くことが出来たので助かった。



裏旭から間宮岳へはイワウメ、キバナシャクナゲ、ミネズオウ、タカネスミレ、チシマクモマグサなどなど花がいっぱいの楽しい高原の道が続く。



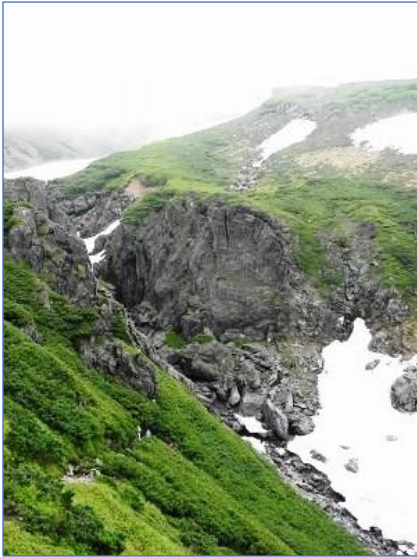
間宮岳で北鎮岳方面への道と北海岳方面への道とに分岐する。

私は北鎮岳方面の中岳分岐へと向かった。ここからはまだ一度も歩いたことのない道なのでわくわくする、山頂から一緒に下りてきた登山者たちはみんな先を急いで行ってしまい、私は花の写真を撮りながらのんびり歩いてきたので、中岳分岐に着いた時には、周りには数人しかいなかった。

この分岐を西側へ下ると今回の花旅の一番の目的「裾合平」への道である。

イソツツジ、エゾノツガザクラ、ミツバオウレンなどが咲く緩斜面の道をしばらく下ると岩場の急斜面になる。





溶岩がむき出しになった旭岳の北側岸壁を左手に見ながらガンガン高度を下げてゆき、30分ほどで 中岳温泉に着いた。

中岳温泉は大雪山系の山の中に潜む天空の秘湯で、ここでの足湯や入浴は、旭岳や中岳、黒岳などの登山客だけの特権だ。温泉といっても入浴施設があるわけではなく、休憩所や売店などあるはずも



なく、脱衣場もトイレもない。登山道沿いの溪流の脇にある岩陰から真っ白い湯が噴き出し、それが土に穴を掘っただけの簡素な湯船に流れ込んでいるだけの野湯だ。恐らくこの温泉へ入るためだけに来る人はまずいないだろうと思う。

登山者の男性が一人足湯を楽しんでいただけで、私は残念ながら温泉を楽しむことなく横目で眺めながら先を急いだ。

中岳温泉を過ぎると、広々とした湿原が現れ、ここから裾合平のお花畑が始まる。木道の一本道が延々と続くが、木道はかなり朽ち果てていて歩きにくい。

木道の両側にはまずミヤマキンバイとエゾコザクラが咲き乱れるお花畑が現われた。腰を落ち着けて時間を忘れて写真を撮った。若い女性が一人後から来てスマホで写真を撮りながら私を抜いていった。



ここで出会ったのはこの女性だけだった。

湿原にはさらにキバナシャクナゲやエゾノツガザクラなどが咲き乱れ、有名なチングルマの大群落と白鳥の雪渓が展開された。誰にも邪魔されることなく、旭岳のすそ野に広がる大湿原のお花畑を心行くまで楽しんだ。



まさに 82 歳の誕生祝いを旭岳の自然からいただいたようだ。

裾合平分岐からは姿見駅へ向かって旭岳のすそ野をトラバースするのだが、これがまた1時間半もかかる長い道で、おまけに小さなアップダウンが繰り返して、疲れた体には結構こたえる道だった。おまけに右膝が痛み出し歩くのが苦しくなった。

茂みの切れ目から左手に時々見える、噴煙を上げている美しい旭岳と、一面に咲くチングルマやエゾノツガザクラ等の花々に励まされながら痛い足を前へ進めた。



やっと遠くに姿見駅の影を見たときは「やっと着いた！」と思わず声を上げた。姿見駅へ14時半に到着、14時40分発のロープウェイで下山した。

今日の宿泊はいつもの当麻スポーツランドだ。3年の空白があるので様子かなり変わっているのではないかと心配したが、以前と全く変わらず懐かしい景色が待っていた。いつも止めている私の定位置に車を止め、さて風呂だ。ヘルシーシャワーも全く変わることなく、浴槽の真ん中で大きな人形が「よく来たね！」と迎えてくれた。ただ入浴料金が100円上がっていた。いい湯に浸かりゆっくりと今日の旭岳の疲れを癒した後、「食堂でビール」と思ったら、コロナ対応で食堂はお休みだと。仕方ない、車へ戻った。駐車場には車中泊らしい車が数台止まっていたが人影は見えない。陽が傾いたので日差しは柔らかく風は涼しい。

いつものように駐車場の横に設置された丸太づくりの机に夕食を広げ、日記を書きながら夕食開始。

ビールが旨い！



今回初めて歩いた裾合平は思った通りの素晴らしいコースで大満足だが、コースの長さを少し甘く見たため、最終的にはかなり疲れた山旅になった。でも素晴らしかった。

明日は赤岳の予定だが、今日はかなり疲れたし、右足も歩くとまだ痛いので明日は休養日にして、ゆっくり休もう。などと考えながら眠りの底へ落ちて行った。